

日蓮宗 常栄山 本照寺だより

なかぶん
中分、世話人、立正佼成会の万灯が奉納されました
りっしょうこうせいかい
日蓮大聖人 第七三七回忌 お会式



④ 出発地の白山集会所から本照寺本堂に到着し、法要に臨むお稚児さん
⑤ 霧雨の中、坂の中ほどにて鐘を振る立正佼成会厚木教会の皆さん



◆世話人万灯に先導され白山集会所を出発し本堂に到着のお稚児さん
◆露店は今後も8店舗 ◆太鼓と笛の隊列・立正佼成会

第76号
厚木市下古沢133
TEL・046-247-1156
FAX・046-247-1156
振替・0230-7-35749
(加入者名・本照寺)
発行所
本照寺・須藤教裕
携帯090-9151-6438

私が本照寺に来て一番時間を割いてきたのは、屋内外の片付け・清掃です。今回はトイレ掃除を五年間続けての気付きをご紹介します。

●一番大切なこと

「トイレ掃除をラクにするコツ」は「キレイな状態を保つこと」に尽きます。

●物理的な理由

なぜか。それは、汚れを放っておくと簡単に落とせない汚れに変わるからです。例えば、尿はトイレの直後であれば簡単に拭き取れます。

副住職のコーナー



き取れ 後で 拭き 簡単 ばあ

トイレ掃除をラクにするのに一番大切なこと (前編)

●心理的な理由
また、トイレが汚れていると、使う人が「粗末に使用している」という気持ちになりやすくなります。さらに汚れてしまったため、建物の窓ガラスを割れたまま放置しておくという「割れ窓理論」と同じ現象が起こります。掃除をする人の立場でも、掃除を先延ばしすると、掃除の腰が重くなるという悪循環に陥りがちです。

●キレイを保つ三つの方法

①徹底的にキレイにする
便器の尿石はサンポールなど酸性の洗剤をかけて一時間ほど放置すれば、ブラシで落とすようになります。カビなど黒ずんだ汚れは、ハイターなど塩素系の洗剤をかけて一時間ほど放置して漂白します。有毒ガスが発生するので、酸性・塩素系の洗剤は絶対に混ぜないよう、ご注意ください。また、立って用を足す男性がいる場合、壁や床など便座の周囲には必ず尿がはねていません。尿汚れは、暗くしてブラックライトで照らすと簡単に見つけられます。尿に含まれる蛍光物質がブラックライトの紫外線で発光するためです。



ライトアップされ神秘的な大いちよう

早いものです 除夜の鐘



■本照寺では師走12月31日午後10時45分から除夜の鐘に先立ち、唱題を行います(別紙を参照ください)。

そして午後11時45分に第一鐘を住職が撞き、以後、お参りの皆さんが順次、鐘を撞いて新年を迎えます。その後、皆さんと共に本堂にて新年のお題目をお唱えいたします。暖かい焚き火や甘酒、玉こんにゃく、お酒を用意してお待ちしています。

お一日(おついたち)

■1月1日、午後2時から「新春盛運祈願祭」が執り行われ、また今年も新年写経が引き続き行われます(別紙を参照ください)。

お檀家の皆さんはもちろん、お守りをお持ちでない方も、どうぞ新年のお目出たい中で、新たなスタートとしてご参拝くださいますように。サンドイッチの用意があります。

■初めてご参加の方は賽銭箱の前にお経本を用意します。ので、そちらをお持ちになり、お好きな所にお座りください。事前にお参りの仕方やお経本の進め方をご説明いたします。(毎月1日の盛運祈願祭は午前9時からです)

御守護札

■このたびはお届けいたしました「外」は玄関出入り口の「三寶大荒神札」さんぽうだいこうじんふだは本照寺本堂内・お賽銭箱右側に奉安してありますので、ご希望の方は本堂にてご自由にお持ちください。また「日蓮宗暦」は適宜ご利用ください。また「古いお札は本堂前の「お焚きあげ箱」へどうぞ。12月1日から本照寺以外のお札類でも結構です。燃えない物のご遠慮ください(無料)。

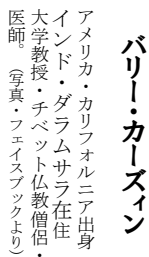
★「お会式」記念品のポールペンどうぞお使い下さい。

『法名字形』『ご埋葬』はイシックスにお任せ下さい
字彫代 35,000円(税込)
埋葬料 10,000円(税込)
満員・保石メジ・香炉置交換 (500円税別) 金沢市

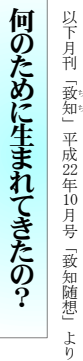


本照寺様 出入り石材店
株式会社イシックス
0120-011140
isix.jp

「みかんのタネはみかんになります。ぶどうのタネはぶどうになります。人の心は不思議です。辛さというタネからやさしさという芽が出ます。哀しみというタネから、希望という花が咲きます」



◆東日本大震災も 東京で自ら体験し、2011年秋より東北の被災地訪問を開始。2012年より、とくに石巻市社会福祉協議会や学校教員の方を対象にしたケアギバーのケアに長期的計画で携わっている。



「原因」と「結果」の法則
THE LAW OF CAUSE AND EFFECT
著者：スティーヴン・グリンジャー
訳者：山本 浩一

■お釈迦様が覚られた因果応報、因縁所生は永遠の真理です。このリード文での次の文章（緑色）はジェームズ・アレン（英・大正元年41歳没）が明治35年に初版した「原因と結果の法則」からの一文であり、これにはナポレオンやデール・カーネギー、ナイチンゲールなどが強く影響を受け、聖書に次ぎ多く読まれていると言われる本です。

「心は創造の達人です。そして、私たちは心や思いという道具を用いて自分の人生を形づくり、その中で、さまざまな喜びを、または哀しみを、自ら生み出しています。私たちは心の中で考えたとおりの人間になります。私たちを取り巻く環境は、真の私たちが自身を映し出す鏡にほかなりません」と。ですが、最古の經典（2千年以上前）と言われる「法句経・ダンマパダ」では、すでに因果応報が説かれているのです。

人間には各々心の中で繰り返しかけてい

自分のハートとマインドで感情、思考、感覚に何が起きているの
 か見られるようになりました。
 そして、それがネガティブであ
 れば、ポジティブに変容しよう
 とするようになりました。

実は、人間には各々心の中で

■チベット仏教と出会ったのは、母を亡くし、さらにその数年後に妻を亡くし、心のケアの必要性を感じていた時期でした。独身になったこともあり、東洋哲学に傾倒していた私は、憧

れていたインドに行くことにしました。その途上のネパールで、ラマ・ゾパ・リンポチェという高僧に出会いました。そして、幸いなことに、チベット仏教の神髄の一端を垣間見るような素晴らしい講義を受けることができました。いまから26年前のことでした。

■私は心の深いところで、チベット仏教は自分の人生で非常に重要だと感じ、本格的に学び始めることにしたのです。数年後、ダライ・ラマ法王か

一方で、法王は、私たちの限界や欠点など足りない部分を鏡のように見せてくれ、気づきを与えてくれます。

▼因果応報は分かりやすいと思いますが、
因縁所生は難しいでしょうか。因果応報は
「原因」があり、依つて「結果」がある、
です。因縁所生は、原因と結果の間に「縁」が
あると見なすのです。例えば、花のタネを植える
ことは「原因」ですが必ず花が咲くという「結果」は訪れ
ません。植えたタネに水分や太陽の光という「縁」がなけれ
ば芽は出ません。故に日本人は「縁」を大切にするのです。
「袖すり会うも多生の縁」とは正に、日本人たる所以でしょう。

異なります。多くの人たちは自
分に過剰な期待をかけ過ぎ、真
として返ってきます。
しかし、皆さんに強くお伝

実を見ることなく、一完璧から「程遠い」と、自分に厳しくなり過ぎてしまいます。

したいのは、いい行動にはいい結果がもたらされるということです。

仕事においても、より正直に
他者のことを思いやりながら
動いていると、より大きな成
に結び付き、幸福感も得られ
す。いまのあなたの考えや行
が未来をつくっていくのです。

まだ私は学びの途上ですが、
法王から「教えに行きなさい

「すべての人を我が母と思う
行つています。」
と言われ、日本でも講演活動
には、自己責任という考え
方があります。これは、因果応
報とかカルマともいいます。因

果応報とは、善いのも悪いのも、自分が受ける結果のすべては、自分が作るということです。

ですからここで重要なのは、将来起こることは、いまの自分の行動によって引き起こされるということとです。他者に害を与える行動や否定的な考え方が動機にある行動は、否定的な結果

という信条に基づいて、日々人々に向き合っています。そやって毎日の一瞬一瞬を大にしていくと、素晴らしい未来が出来ます。皆さんとともにそのような日々を共有していきたいと思っています。

（バリー・カーズイン・チベ
ト仏教僧・医師）

全ては「偶然」ではなく「必然」であり、「因果応報」

次の言葉は日蓮聖人が41歳鎌倉時代の時に残されたものです。

総じて
因果をしらぬ者を
邪見と申すなり

■ 私たちは、今受け取っている環境を「たまたま」、或いは「偶然」と考えがちになっていませんか？　ここにさまざまな

過ちと後悔を生む要因があるのではないでしようか。

■ 最古の經典「法句經・ダンマパダ」に、次のようにあります。

「**ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくりだされる。**もしも汚れた心で話したり行ったりするならば、苦しみはその人につき従う。車をひく牛の足跡に車輪がついてゆくように」

「**ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり**

だされる。もしも清らかな心話したり行ったりするならば福楽はその人につき従う。影そのからだから離れないようにどうでしようか、すべて「偶然」ではなく「必然・因応報」であつたと理解できるとでしよう。

日々の信仰は私たちに「木見て山を見ず」でなく、鳥がいところから見渡すように、**瞰（ふかん）**の目を養つてくれ

ことでしやう。